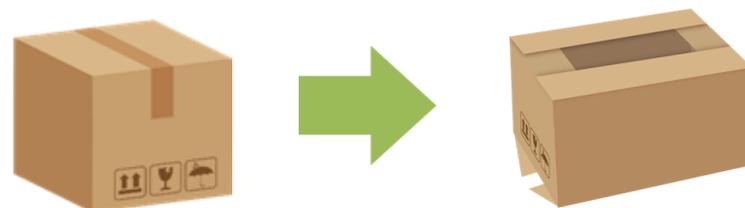


これまでの段ボール箱が過剰なスペック（仕様）ではなかったか、  
様々な視点から箱の規格を見直す活動

## 事例1. ショートフラップ化

- ・天面フラップを短くし、段ボール原紙の使用量を削減することで低コスト化



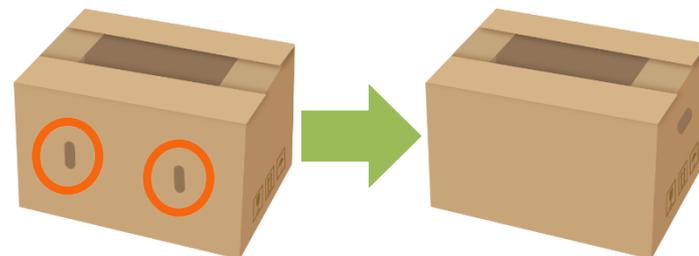
## 事例2. 不要な「撥水機能」の廃止

- ・段ボールの撥水機能は一時的
- ・そのため、長時間水に触れる青果物流通では価格上昇につながる「撥水機能」は不要な場合が多い



## 事例3. 強度低下につながる不要な「手穴・空気穴」の見直し

- ・真空予冷や強制通風予冷の場合、通気孔は必要ない
- ・通気孔を無くすことで段ボール箱の強度が上昇するため、低グレード(低コスト)化の検討が可能となる



※R7年度より環境配慮の視点も加えた「Eco Smart Packaging提案」として取組む。